CG-WLCB11V3

詳細設定ガイド

PN Y613-03407-02 Rev. A

添付マニュアルのご紹介

本製品には、次のマニュアルが添付されています。
本製品の各マニュアルをよくお読みになり、本製品を正しくお使いください。

●はじめにお読みください（付属：紙マニュアル）

安全にお使いいただくためのご注意や、添付品の内容、各部の名称と機能、サポートに関する情報などを説明しています。
本製品をお使いになる前に必ずお読みになり、正しくお使いください。

●クイック設定ガイド（付属：紙マニュアル）

本製品の専用ソフトウェアのインストールについて説明しています。本製品の導入時にお読みください。

●詳細設定ガイド(ユーティリティーディスク収録：PDFマニュアル・本書)

セキュリティー設定など、本製品の詳細な機能説明や設定方法などを説明しています。

●トラブル解決 Q&A（ユーティリティーディスク収録：PDF マニュアル）

本製品のトラブルシューティングを説明しています。必要に応じてご覧ください。

セット商品の場合は「はじめにお読みください」「クイック設定ガイド」は付属しておりません。「お使いの手引き」に同様の内容が記載されておりますので、「お使いの手引き」をご覧ください。

はじめに

このたびは、「CG-WLCB11V3」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書は本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでも参照していただけるように、大切に保管してください。

コレガ製品に関する最新情報（ファームウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせいたします。

http://www.corega.co.jp/

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	CG-WLCB11V3を指します。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

・Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating Systemです。
・Windows® XPは、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating systemおよびMicrosoft® Windows® XP Professional operating systemの略です。
・Windows® 2000は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略です。
・Windows® Meは、Microsoft® Windowsィ Millennium Edition operating systemの略です。
・Windows® 98SEは、Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating systemの略です。

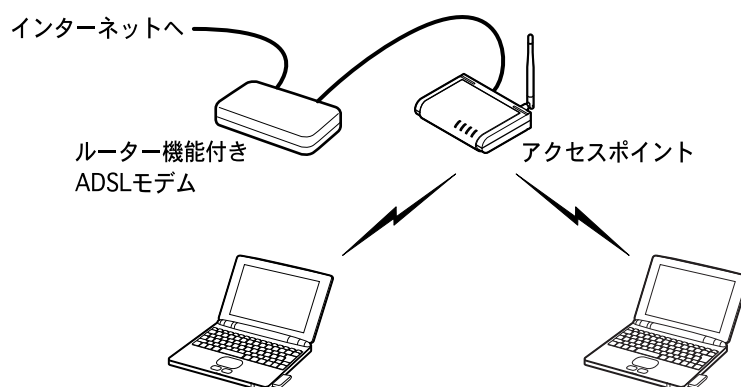
目　次

接続方法を決めよう

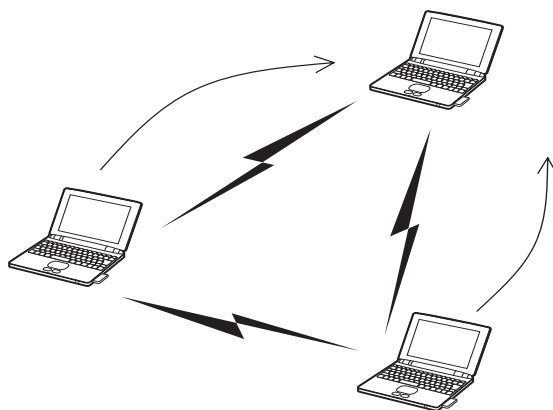
本製品は、IEEE802.11b規格に対応したワイヤレス（無線LAN）通信アダプターです。IEEE802.11b規格に対応した無線ルーター、無線アクセスポイントと組み合わせることで、無線ネットワークを構築することができます。また、同じ規格の無線アダプター間の通信をすることもできます。以下の例を参考にして本製品とパソコンの接続方法を決めてください。

本製品は、各社の無線LAN機器との間で相互接続性を確保していますが、個別製品の接続可否については、お使いの機器の製造・販売元にお問い合わせください。また、コレガのホームページでは、本製品との接続が確認された動作検証表を随時公開していきますので、あわせてご覧ください。

■アクセスポイントを使ってインターネットに接続する〜 Infrastructure

「インターネット接続を複数台のパソコンで共有したい」「ケーブルなしでインターネットに接続したい」といった場合には、次の図のようにアクセスポイントを使ってインターネット接続をします。このときには「Infrastructure」モードにします。また、既にケーブルを使ってネットワークが構築されている環境に、無線LANを追加するときなどもこのモードにします。工場出荷時の設定ではこのモードになっております。

アクセスポイントは、別途ご購入いただく必要があります。

■パソコン同士でファイルのやりとりをするだけなら～ Ad-Hoc

「離れた場所にあるパソコン同士でファイル交換ができればいい」という場合には、アクセスポイントは不要です。次のように無線LANアダプターを搭載したパソコン同士で直接通信をします。このときには「Ad-Hoc」モードにします。設定方法については、PART2の「無線LANの設定をしよう」「Ad-Hocモードで使うときは」（P.13）をご覧ください。

■無線LANのセキュリティー対策について

無線LANでは電波を使って通信を行うため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。このようなことがないように、次のようなセキュリティー機能を用意しています。設定を行いたい場合は、PART2「無線LANの設定をしよう」「セキュリティー設定をしよう」（P.15）をご覧ください。

・通信グループ化をする
　　ESSIDを設定する

・通信内容を暗号化する
　　WEP（暗号キー）を設定する
　　WPA(高度な暗号キー）を設定する（Windows XP SP1 以降のみ）

本製品の工場出荷時の設定は、右表のとおりです。

項目	出荷時設定
ESSID	corega
チャンネル	Auto
暗号化	無効

本製品を使わないときは

■本製品をパソコンから取り外す

本製品をパソコンから取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。正しい手順で取り外さないとパソコンが正常に動作しなくなることがあります。

- 本製品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークに接続していないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。
- 以下の１～３の操作を行うと、実際に本製品を取り外さなくてもデバイスの使用を停止したとみなされ、本製品は使用できなくなります。再度使用するときは、一度本製品を取り外してから再び挿入してください。

1　画面左下のタスクトレイ（通知領域）上の　または、　をクリックし、「CG-WLCB11V3を安全に取り外します」をクリックします。（ご使用のOSにより、下線部の表示は、中止や停止するという意味の内容になります。）

2　安全に取り外せる旨のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

3　パソコンのイジェクトボタンを押し、本製品をPCカードスロットから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。
再度使用する場合は、そのままPCカードスロットに取り付けると使用できます。

■ソフトウェアを削除するには

本製品用のソフトウェアをパソコンから削除する方法を説明します。

1　本製品をパソコンに挿入します。

2　ネットワークアダプタ内の本製品のネットワークアダプターを削除します。
①「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。
②「デバイスマネージャ」タブをクリックして、「ネットワークアダプタ」にある本製品のネットワークアダプタを右クリックし、削除を選択します。

3「本製品をパソコンから取り外す」(本ページ)の手順でパソコンから本製品を取り外します。

4「スタート」ボタン－「プログラム」－「CG-WLCB11V3」－「無線LANソフトウェアの削除」の順にクリックします。
「ファイルの削除の確認」が表示されます。

5「OK」をクリックします。
ソフトウェアの削除が行われ、しばらくすると「InstallSheld Wizardの完了」が表示されます。

6「完了」をクリックします。

これでソフトウェアの削除は終了です。

ネットワークの設定をする

無線LANでデータをやりとりしたり、インターネットに接続したりするには、ネットワークの設定が必要です。

■インターネットに接続するとき

本製品を接続したパソコンでインターネットに接続するにはTCP/IPの設定が必要です。次の手順で設定を確認してください。

● Windows XP の場合

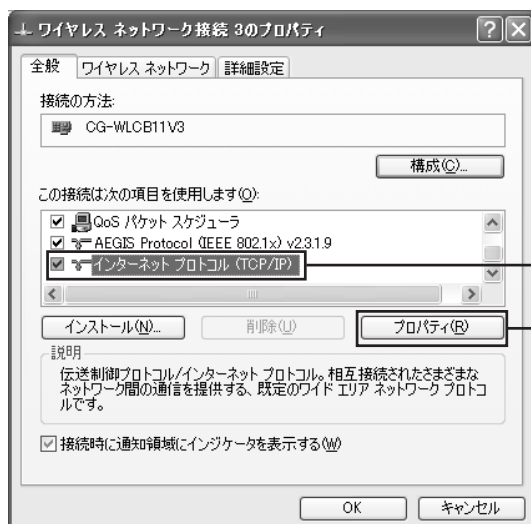
設定を変更するには「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンしてください。

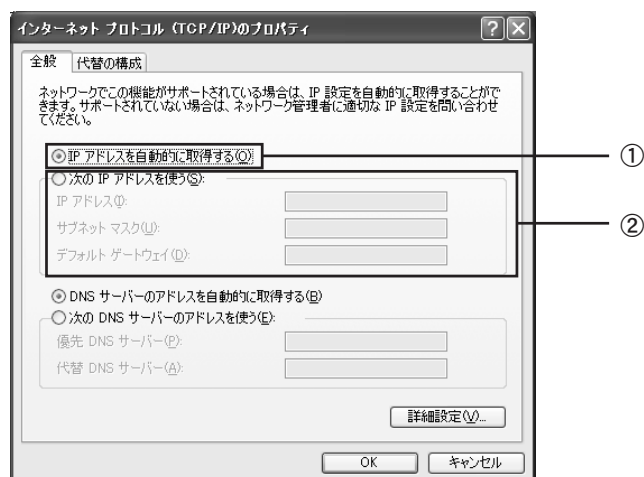
1 「スタート」−「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」にチェックが入っているか確認します。

6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

7 「全般」タブを選択し、次のように設定します。

①DHCP サーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IP アドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCP サーバー機能を使用しない場合や、特定の IP アドレスを割り当てる必要がある場合は、「次の IP アドレスを使う」を選択して、使用する IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。

※お使いの環境によってはこの他ネットワークの設定をする必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

8 「OK」ボタンをクリックします。

9 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面で、「OK」ボタンをクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。
※メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書を参照して、設定を行ってください。

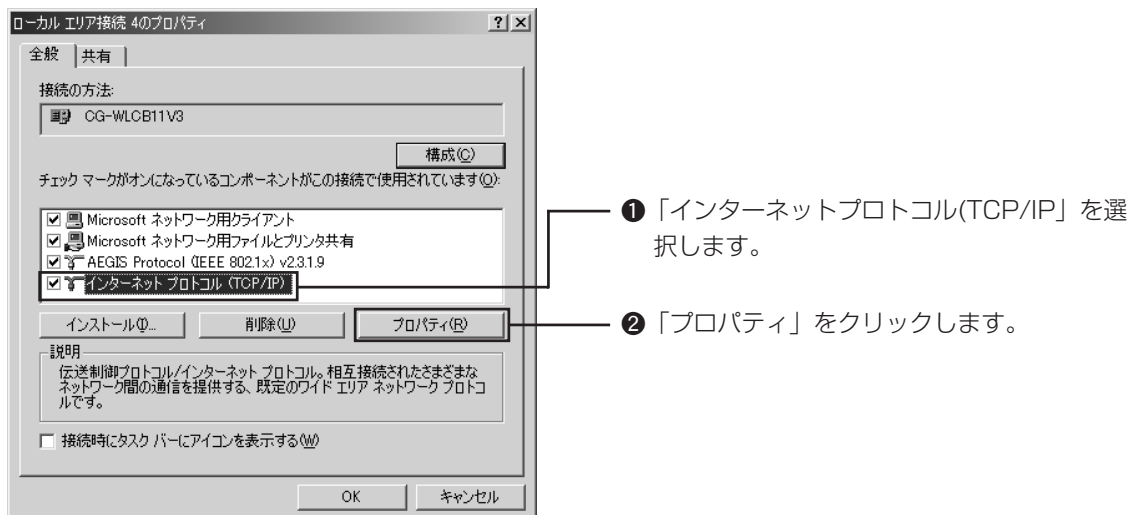
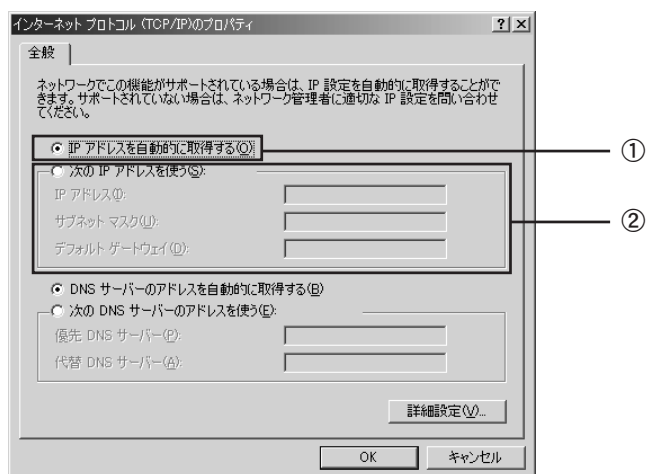
● Windows 2000 の場合

設定を変更するには「Administrator」または Administrators グループのユーザー名でログオンしてください。

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。
※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境によって異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP）が有効になっていることを確認します。

4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

5 次のようにIPアドレスの設定をします。

①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は､｢IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCPサーバー機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

※お使いの環境によってはこの他ネットワークの設定をする必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

6　「OK」ボタンをクリックします。

7　「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の「OK」ボタンをクリックします。

8　再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

インターネットに接続するにはルーターなどの設定も必要です。各機器の取扱説明書を参照して、設定を行ってください。

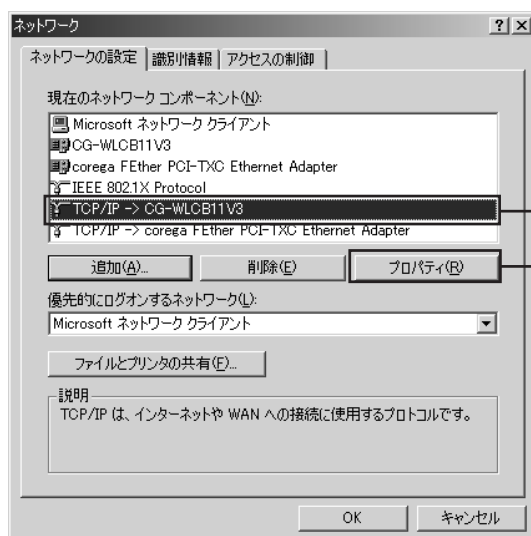
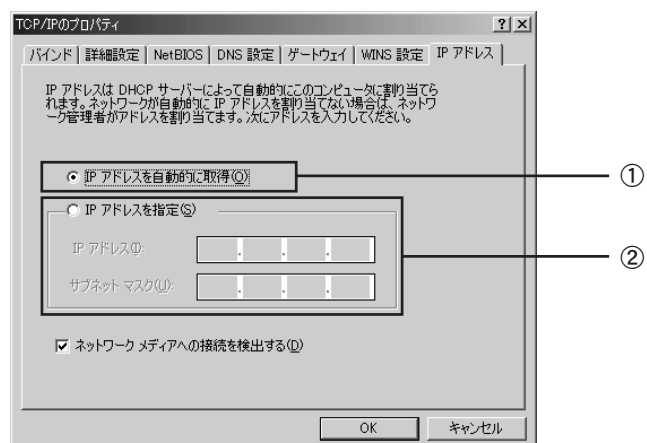
● Windows Me/98SEの場合

ここでは例としてWindows Meを使用しています。Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1　「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

2　「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

3　「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP－＞CG-WLCB11V3」が表示されていることを確認します。

4　「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞CG-WLCB11V3」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

5 「IP アドレス」タブで、次のように設定をします。

①DHCPサーバー機能を持ったルーターなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCP サーバー機能を使用しない場合や、特定の IP アドレスを割り当てる必要がある場合は、「次の IP アドレスを使う」を選択して、使用する IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。

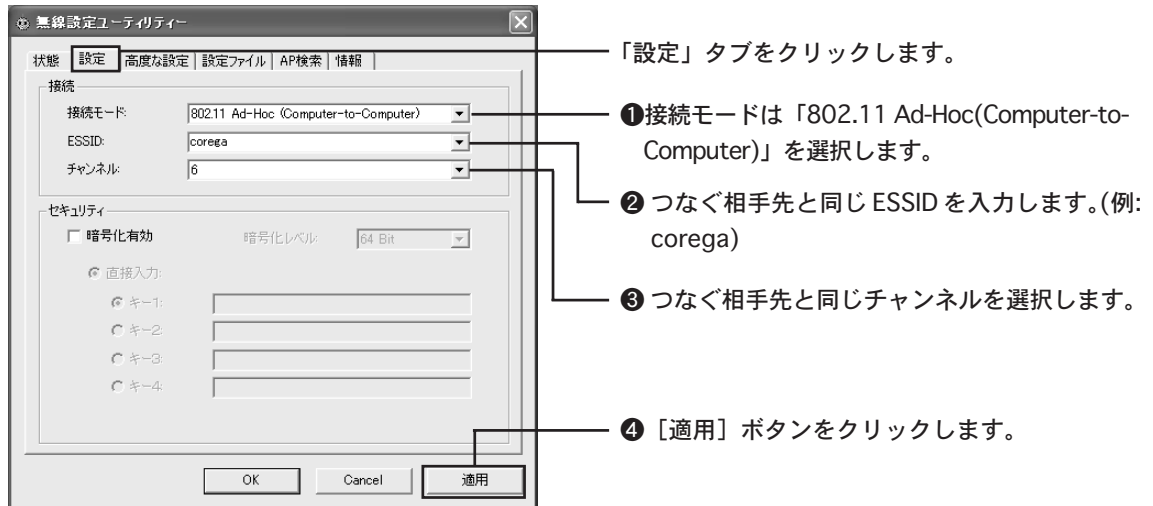
※お使いの環境によってはこの他ネットワークの設定をする必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ネットワーク」画面の「OK」ボタンをクリックします。

「Ad-Hoc モード」で使うときは

画面右下のをクリックし、本製品のユーティリティーを起動します。

1 「設定」タブをクリックします。

2 「状態」タブが自動的に表示されるので、本製品とつながっていることを確認します。

3 ［OK］ボタンをクリックします。

これで「Ad-Hoc モード」の設定は完了しました。セキュリティーの設定を行う場合は「セキュリティー設定をしよう」（P.15）をご覧ください。

本製品は 802.11Ad-Hoc で動作します。

無線LANのセキュリティーについて

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入される恐れがあります。本製品では、これらの対策として次のようなセキュリティー機能を搭載しています。

■本製品で設定できるセキュリティー機能

● ESSID(Extended Service Set IDentifier)

無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。設定方法については、このPARTの「ESSIDを設定する」(P.15)をご覧ください。

● WEP(Wired Equivalent Privacy)

通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティー機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。64Bit、128Bitの２種類から任意で暗号キーを作成します。設定方法については、このPARTの「WEPを設定する」(P.16)をご覧ください。

● WPA(Wi-Fi Protected Access) :Windows XP SP1以降のみ

通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティー機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わるTKIPを採用しており、WEPよりも解読されにくくなります。家庭でご利用できる「WPA－PSK（Personal)」と企業内でご利用できる「WPA－EAP（Enterprise)」の２種類の設定ができます。設定方法については、このPARTの「WPAを設定する」(P.17)をご覧ください。

セキュリティー設定は、通信相手機器に合わせて同じ内容の設定を行ってください。

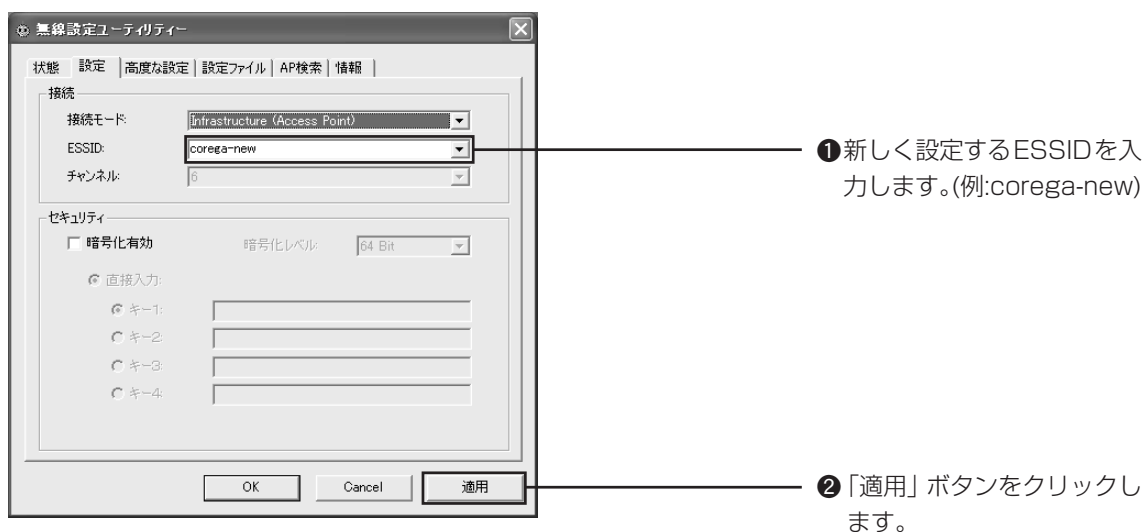
セキュリティー設定をしよう

■ESSIDを設定する

画面右下のタスクトレイ(通知領域)にある［アイコン］をダブルクリックし、本製品のユーティリティーを起動します。

アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能（ステルスAP）が有効になっている場合はESSIDが空欄で表示されます。

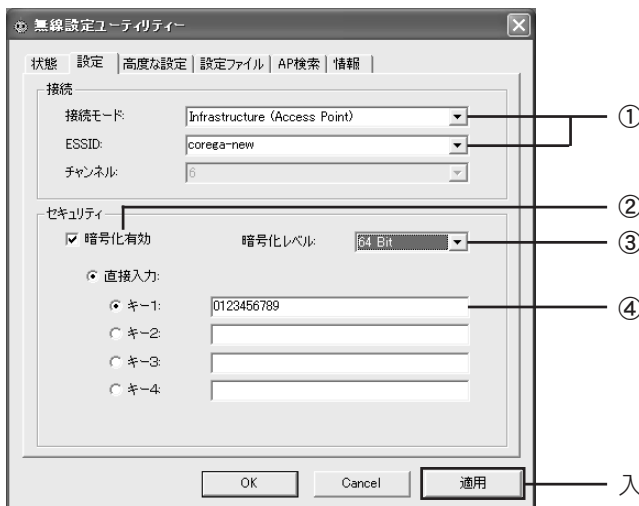
1　「設定」タブをクリックします。

2　「プロパティ」画面が表示されますので、新しく設定するESSIDの値を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

3　「状態」画面が表示されるので、つながっていることを確認します。

4　［OK］ボタンをクリックします。

WEPの設定をする場合は、次ページをご覧ください。

■ WEP を設定する

画面右下のタスクトレイ(通知領域)にあるをクリックし、本製品のユーティリティーを起動します。

アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能（ステルスAP）が有効になっている場合はESSIDが空欄で表示されます。

1　「設定」タブをクリックします。

2　WEP の設定をします。

つないでいる相手に合わせて入力等をしていきます。
例:つないでいる相手が以下の設定の場合

接続モード	Infrastructure モード
ESSID	corega-new
暗号化レベル	64Bit
WEP キー	1
暗号キー	0123456789

① 「接続モード」、「ESSID」を選択します。
(例:「Infrastructure (Access Point)」「corega-new」)

② 暗号化有効にチェックを入れます。

③ 「64Bit」「128Bit」の中から選択します。(例:64Bit)

④ 使いたい暗号キーをKey1～4の中から選択します。(例:「キー1」に「0123456789」と入力)
16 進数の任意の暗号キーを直接入力します。
・64Bit　：16 進数（0～9、a～f）　半角 10 桁
・128Bit ：16 進数（0～9、a～f）　半角 26 桁

3　［適用］をクリックします。

4　「状態」画面が表示されるので、つながっていることを確認します。

5　［OK］ボタンをクリックします。

■WPA を設定する(Windows XP SP1 以降のみ)

本製品で WPA を設定するには Windows XP Service Pack 1 以降で、Microsoft 社が提供する「Windows XP Wireless Protected Access サポート修正プログラム」がインストールされている必要があります。また、ご使用の無線ルーターや無線アクセスポイントなどの通信相手側機器がWPAに対応していることをあらかじめ確認してください。

「Windows XP Wireless Protected Access サポート修正プログラム」を入手するにはMicrosoftのサイトからWindowsのアップデートを行うか、以下のURLからダウンロードしてください。(2004年4月現在)

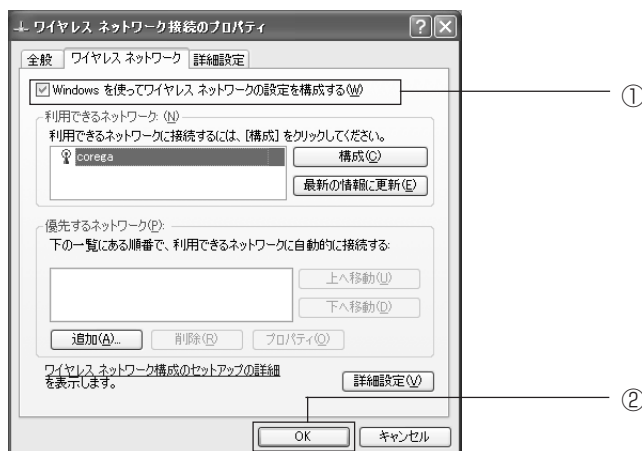
http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=5039ef4a-61e0-4c44-94f0-c25c9de0ace9&displaylang=ja

1 「スタート」－「コントロールパネル」をクリックします。

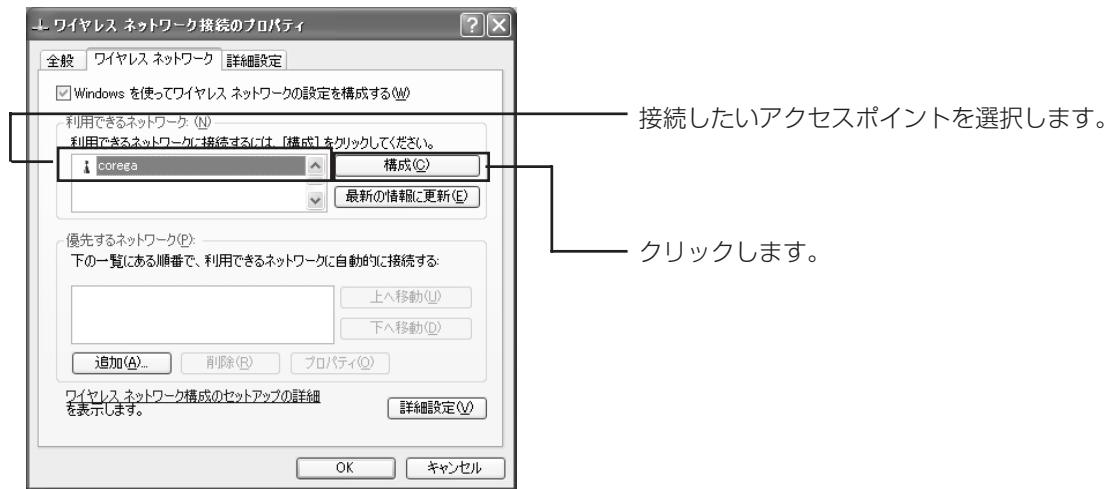
2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

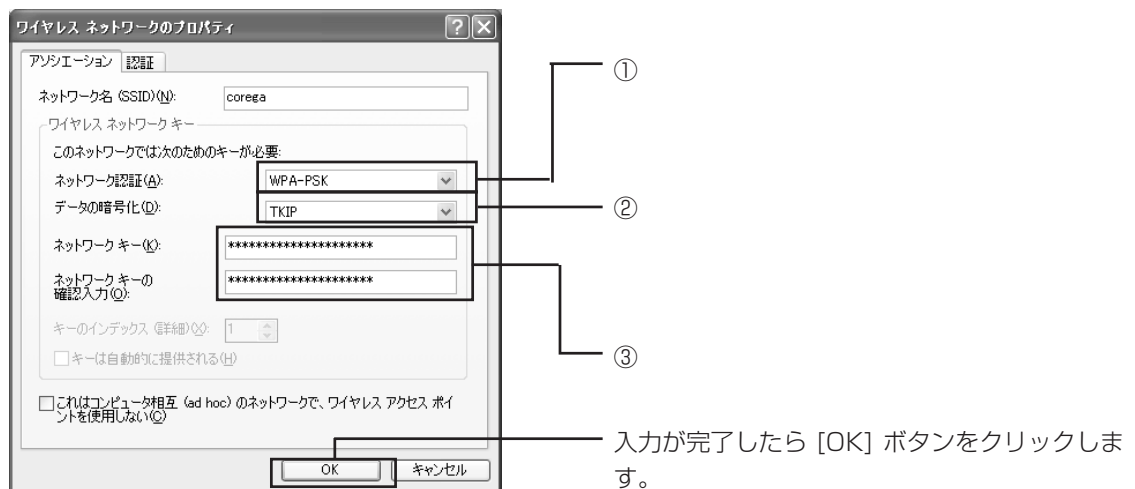
3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「ワイヤレスネットワーク」タブを選択し、次のように設定します。

①「Windows を使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する」にチェックをつけます。
② [OK]ボタンをクリックします。

6 手順1～4を参照し、「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面を開き、「ワイヤレスネットワーク」タブをクリックします。

7 「利用できるワイヤレスネットワーク」のリストから接続したいアクセスポイントを選択し、[構成] ボタンをクリックします。

●家庭で利用する場合（WPA-PSK）

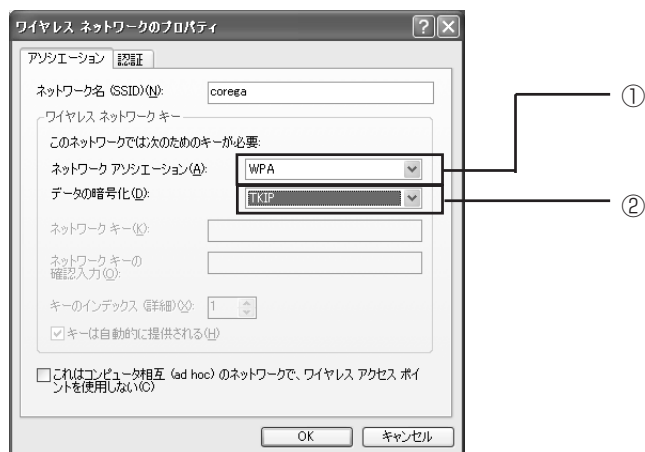
次のように入力します。

①「WPA-PSK」を選択します。

② 接続したいアクセスポイントに合わせて「WEP」「TKIP」「AES」の３種類から選択します。

③ 接続したいアクセスポイントと同じネットワークキー（共有キー）を入力します。

●企業で利用する場合（WPA-ESP）

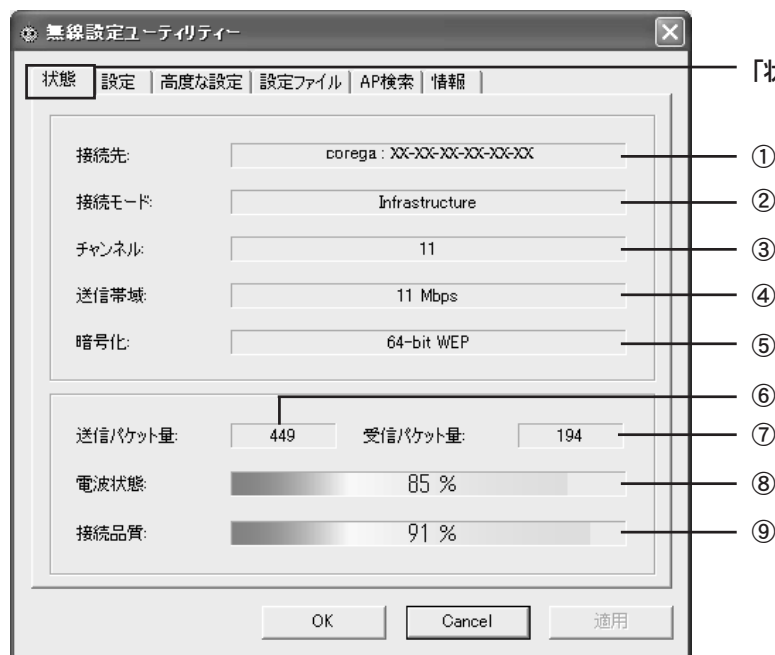
弊社ではWindows 2000 Server インターネット認証サービス(IAS)で動作を確認しております。

1　次のように入力します。

①「WPA」を選択します。

② 接続したいアクセスポイントに合わせて「WEP」「TKIP」「AES」の３種類から選択します。

2 「認証」タブをクリックし、EAPの種類を選択して認証の取得と設定を行ってください。設定手順はご使用の環境によって異なりますので、個々のサービス担当者にお問い合わせください。

「状態」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にあるアイコンをダブルクリックしてユーティリティーを起動してください。

「状態」タブをクリックします。

項目名	内　　容
①接続先	現在の無線接続先とMACアドレスを表示します。
②接続モード	現在の接続モードを表示します。
③チャンネル	現在使用しているチャンネル番号を表示します。
④送信帯域	現在通信中の帯域を示します。
⑤暗号化	暗号化されている場合は、そのタイプを表示します。
⑥送信パケット量	現在の送信データ量の累計値を表示します。設定はできません。また、パソコンを再起動するとリセットされます。
⑦受信パケット量	現在の受信データ量の累計値を表示します。設定はできません。また、パソコンを再起動するとリセットされます。
⑧電波状態	現在の電波状態をパーセンテージで表示します。
⑨接続品質	現在の電波の品質をパーセンテージで表示します。

「設定」画面

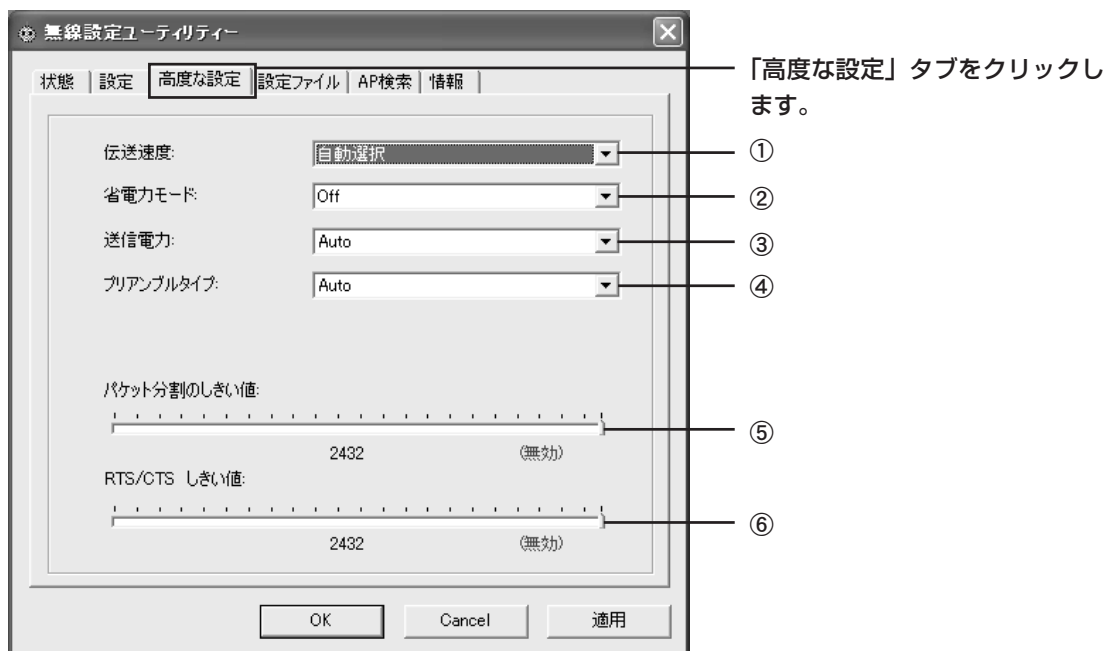
画面右下のタスクトレイ（通知領域）にある をダブルクリックしてユーティリティーを起動してください。

「設定」タブをクリックします。

項目名	内　　容
①接続モード	本製品の接続モードを「Infrastructure(Access Point)」または「802.11 Ad-Hoc(Computer-to-Computer)」の２つのモードから選びます。
② ESSID	つないでいる相手の無線機器で使用されているESSIDと同じ文字列を入力します。 ※工場出荷時は「corega」に設定されています。
③チャンネル	通信したいチャンネルを１～14の間で選びます。(Ad-Hoc モードの場合)
④暗号化有効	チェックを入れて、本製品にセキュリティーをかけることができます。
⑤暗号化レベル	64Bitと128Bitの２種類から暗号レベルを選びます。128Bitのほうがより高いセキュリティーをかけられることができます。
⑥直接入力	ラジオボタンをクリックすると、キー１～４までの暗号キー文字列を直接打つことができます。
⑦キー１～４	入力したいキーナンバーのラジオボタンをクリックして、入力します。 つないでいる相手の無線機器と同じキーナンバー、文字列を入力してください。

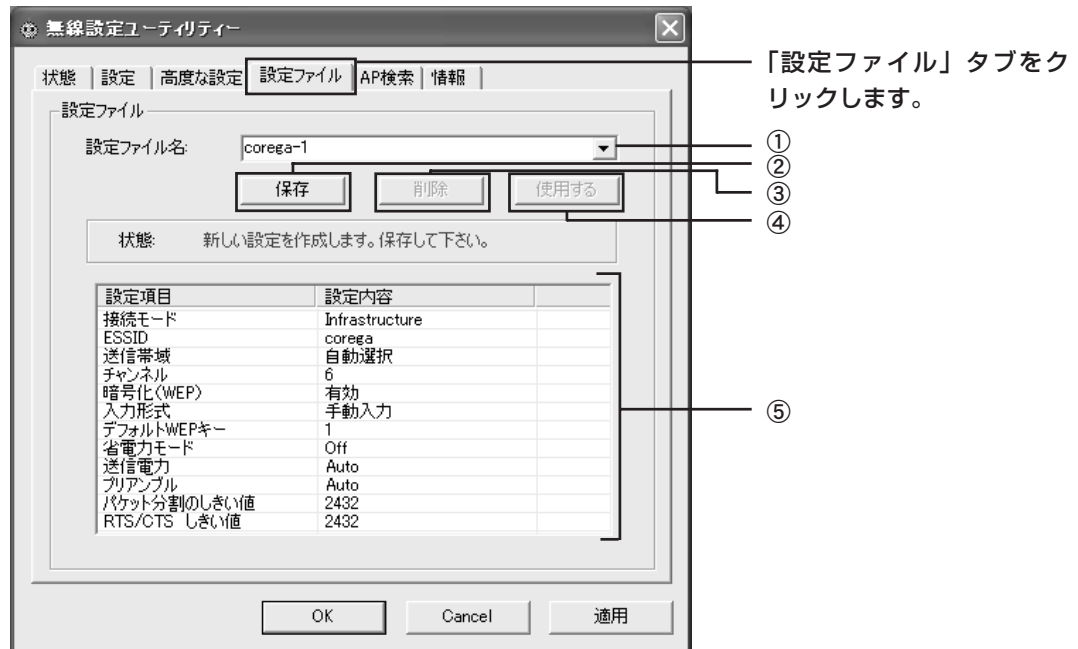
「高度な設定」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にあるアイコンをダブルクリックしてユーティリティーを起動してください。

「高度な設定」タブをクリックします。

項目名	内　　容
①伝送速度	伝送速度を選びます。「1Mbps」「2Mbps」「5.5Mbps」「11Mbps」「自動選択」かの５種類から選びます。
②省電力モード	電力の消費を節約させるときに選択します。「Off」「省電力」「最大省電力」の３種類から選びます。
③送信電力	送信するときの電力を何%で行うかを選択します。「Auto」「100%」「75%」「50%」「25%」「12.5%」「Minimum」の７種類から選びます。
④プリアンブルタイプ	「Auto」「Long Tx Preamble」「Short Tx Preamble」の３種類から選びます。 Auto…Short と Long を自動的に切り替えます。 Long…通信時のパケットごとに同じ量の情報を送るので、安定性があります。 Short…安定性は下がりますが、通信速度は上がります。
⑤パケット分割の しきい値	決められたパケット容量(Byte)を超えた場合、分割して送信します。 ※通常は変更する必要はありません。
⑥RTS/CTS しきい値	RTC しきい値を設定します。ここで設定された値をこえるパケットを送信しようとするときは、「RTS/CTS しきい値」のメモリ部をクリックして数値を決め、有効にします。 ※通常は変更する必要はありません。

「設定ファイル」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にあるをダブルクリックしてユーティリティーを起動してください。

「設定ファイル」タブをクリックします。

項目名	内　　容
①設定ファイル名	設定するときに、名前を入力します。 ファイル名 (英数半角文字0～9、a～z 、! ” # ＄ % & ’ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [￥] ^ _ { ¦ } ˜) で入力して「保存」ボタンをクリックしてください。
②保存	⑤一覧表に表示されている設定を保存します。
③削除	保存してあるファイルを削除したいときに、①「設定ファイル名」で削除したいファイル名を選び、削除ボタンをクリックします。
④使用する	保存してあるファイルの設定にしたいときに、①「設定ファイル名」で使用したいファイル名を選び、［使用する］ボタンをクリックします。
⑤一覧表	①「設定ファイル名」で表示されている設定ファイル名の設定内容または、現在の設定内容が一覧になって表示されています。

「AP 検索」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にあるをダブルクリックしてユーティリティーを起動してください。

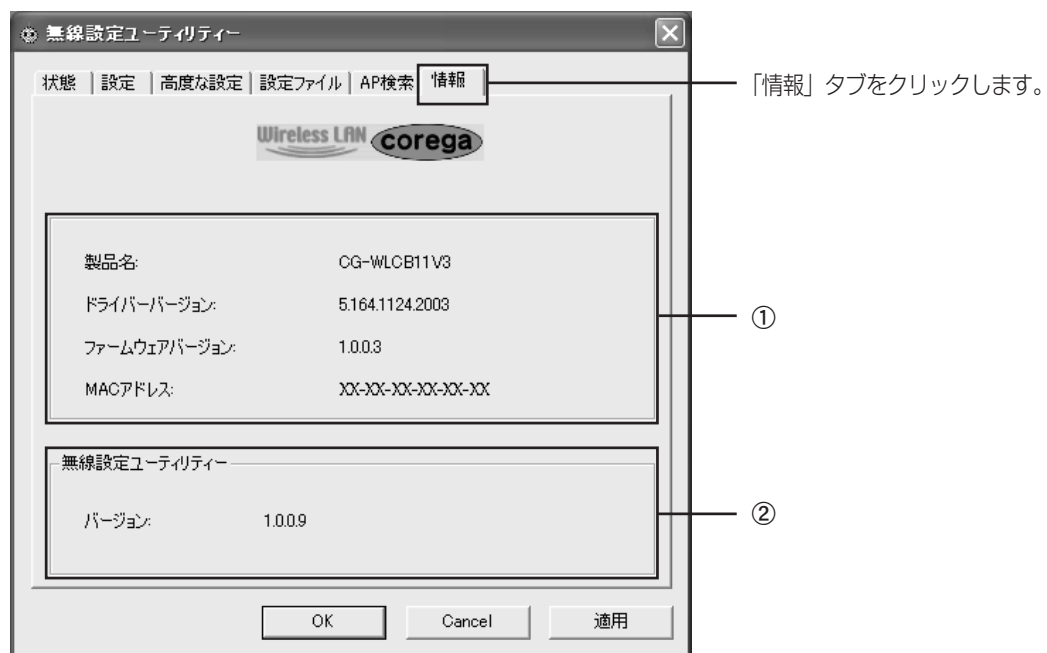
「AP 検索」タブをクリックします。自動的に検索を行い、利用可能な接続先が表示されます。

項目名	内　　容
①再検索	複数の接続先から接続したい接続先を探したい場合にクリックしてください。新たに接続先を検索できます。
②接続	リストに表示された接続先を選択し、「接続する」をクリックすると接続が開始されます。

※ 暗号化されている場合は、「接続する」をクリックした後、「設定」タブをクリックし、接続相手に合わせてセキュリティーを入力する必要があります。

「情報」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にあるをダブルクリックしてユーティリティーを起動してください。

「情報」タブをクリックします。

項目名	内　　容
①ハードウェア情報	現在の本製品のバージョンや、MAC アドレス等を表示します。
②ユーティリティー情報	現在のユーティリティーのバージョンを表示します。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダーやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、CATV/ADSL モデムに直接接続するネットワーク機器（本製品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダーに対して事前申請してください。
本製品の MAC アドレスは本体裏面に記入されています。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
・本製品の仕様またはそのご使用により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

2004年5月　Rev.A　初版